F-ROAD SUPER-BEETLE PROJECT
エフロード・スーパービートル製作日記

目指せ草レースの鬼!

いよいよスタートを切った「エフロード・スーパービートル製作日記」。
先月号ではボディとシャシを分離したところまでお伝えした。
今月は、そのボディだけ福島県のとあるショップへと運び、
板金・塗装をお願いすることにする。果たして蘇るのか? 不安いっぱい…。

文●半谷範一　撮影●森口信之、エフロード編集部
取材協力●ベストインポートサービス　TEL:048-282-6119　http://www.vw-bis.co.jp
スピードジャパン　TEL:03-3555-8865　http://www.speedjapan.co.jp/
日栄自動車商会　TEL:024-534-9680　http://auto.jocar.jp/nichiei/

F-ROAD×SPEED JAPAN×BIS
FSB PROJECT
F-ROAD SUPER-BEETLE PROJECT

板金・塗装のため一路福島へ!!

先月号でシャシとボディを分離したエフロード・スーパー・ビートル（FSB）、今月は次のステップであるボディの作業に入ることになった。

前回も書いた通り、このFSBに関しては出来る限り自分達で作業をするつもりなのだが、さすがに板金や塗装のように職人業が要求されるような所は自分達だけでは手に負えないというのが正直な所。仕上げの善し悪しを問わないのなら缶スプレーで塗っちゃうことも出来るけど（経験あり!）、やっぱりせっかくエフロードの看板背負って走る以上は、外見にもそれなりにこだわりたいもんね。

というわけで、このクルマの塗装に関してはプロの手に委ねることにしたのだが、色々考えた末にお願いすることにしたのは、福島の日栄自動車商会さんだった。

読者の皆さんの中には御記憶の方がいらっしゃるかもしれないが、日栄自動車さんといえば、以前本誌で996のポルシェ911の顔を997仕様にモディファイするという「996・5」のプロジェクトでもお世話になったショップ。モーターショー関連の仕事をする程の高い技術力をもった職人集団なので、仕上がりに関してはかなり期待できるはず。

それに実はこのクルマ、今の『スピードジャパン・カラー』に塗ってくださったのも日栄自動車さんだし、筑波1000でY's CUPの60分耐久レースが開催されたときには、専務の鈴木敏春さんがこのクルマのドライバーの一人として参加したこともあるのだ。まっ、そう考えれば、こちらに

VW専門店『BIS』から板金・塗装のプロ『日栄自動車』へ

さすがVWポカールカップで活躍していたBIS山崎社長は快調に順調に東北道を飛ばす飛ばす!

みんなでBISに集合したときには、すでにFSB号は積込みを完了していた。今回はクラッシュのダメージを修理するために板金作業も行なうので、そのために必要なパーツはBISの部品取車から外して持ち込むことにした。今回は山崎社長が自らドライバーになって同行してくださることになったので心強い。山崎社長はかつてVWゴルフのワンメイクレース、ポカールカップで活躍したドライバーということもあってか、積載車でも飛ばす飛ばす(笑)。気を抜くと私達の方が置いて行かれそうになってしまう。途中、きれいなアルファ・ロメオ・スパイダーに遭遇。

難しい話は山崎社長から日栄さんへ我々の出番、特になし!

心配していた行楽渋滞に遭遇することもなく、無事に日栄自動車に到着。さっそくクルマを下ろして今後の打ち合わせをすることにした。でも技術的な問題に関しては山崎社長から日栄自動車の皆さんに説明していただいてしまったので、私達の出番は全然なし。この日栄自動車では、昔VWビートルを加工して看板に使っていたことがあるということで、そういう点では馴染みのあるクルマでもあるのだが、実際に板金・塗装を引き受けるのは久し振りだという。

F-ROAD SUPER BEETLEはここ日栄自動車でお色直しだ!

面倒な作業を日栄自動車さんに無理矢理押しつけて(笑)、FSBも第二段階に入ります。企画の趣旨からすれば何かお手伝いしなくちゃならないけど、手伝いじゃなくて作業の邪魔になりそうな気もします。さて、来月はどこまで進むのやら…。

さーて何をどーして色はどーするの会議

メンテが大変な艶消しは実現するか!?

問題となったのは色をどうするか? という点。古Q編集長の希望は艶消しなのだが…。写真右側の鈴木専務、中央の中村さんの様子を見ても分かる通り、艶消しにしてしまうと中々大変なことになるようだ。古Q編集長の要求しているレベルがそれほど高くないことは理解しているものの、やはり職人さんとしては恥ずかしい仕事はしたくない。う〜ん、悩みますね。

お願いするのが当然でしょう。

某月某日、前回ボディとシャシを分離した川口市のBISの工場に集合し、東北道で一路福島を目指す。

日栄自動車のスタッフの皆さんに説明をするのに、私達だけではちょっと心許ないと思ったのか? 今回もBISの山崎社長が自ら積載車を運転して同行。直接説明してくださることになった。本当に有難うございます。

幸い天候に恵まれ、渋滞にもつかまらず、無事に日栄自動車に到着。さっそく打ち合わせに入る。

オレンジ色に塗っていただいたときは、新しい補修用のペイントのテストも兼ねて鈴木専務が一人で塗ってくださった。しかし、今回は「996・5」のときと同じ中村英幸さんが中心になって作業をしてくださるようで、テクニカルな点に関して山崎社長と打ち合わせをしていただいた。

で、肝心なボディカラーをどうするか? なのだが…。古Q編集長の希望は艶消し。具体的な色に関してはまだ秘密だが、ルーフBTRのNATOやランボルギーニ・レヴェントンのようなイメージで、スーパーカー雑誌にふさわしいイメージに仕上げたいという意向のようだ。Y's CUPに出てくるようなチューニングVWの中にも何台か艶消しのクルマがいるけど、確かに中々精悍で格好いいねぇ。

しかし、日栄自動車の鈴木専務、中村さんは二人とも艶消しはあまりお薦めできないという意見。確かにどのようなイメージにしたいのかは理解できるけれど、展示するだけのショーカーではなく、実際に走らせるクルマとしては、メンテナンスという面でかなり面倒なことになるというのだ。

さて、どうしたものか? 気になる結果は…次号をお楽しみに。